

石田 賢哉「地域生活支援とコミュニティの鍵概念

—精神障害者の地域生活支援の「地域」とは何を意味するものなのか—

現在、精神科ソーシャルワーカー (PSW・精神保健福祉士) は、地域・コミュニティを視野に入れた支援を強く求められている。また、精神障害者のみならず全地域住民にとって、コミュニティの重要性は増してきている。更に引きこもり、児童虐待、高齢者虐待、いじめ等々が、深刻な社会問題となっている。個人・家族を支援対象とするミクロレベルの支援だけでなく、地域を対象としたメゾからマクロレベルにわたるソーシャルワーク支援なくしては、これらの問題の抜本的支援はあり得ない。コミュニティ喪失に危機感を持っている評者は、本テーマに関心を持って本論を読み始めた。

短い論文にもかかわらず、本論では「コミュニティ・地域」を始め、「地域生活者、コミュニティ感情、ストレングスマodel、自主性、責任性、意識、つながり、地域生活支援システム、精神障害者、市民性、生活者主体、ケアマネジメント、地域性、共同性、関係、物財、連帯性、帰属意識、逆機能、生活のしづらさ、ストレングスパースペクティブ、QOL、プロセス、社会的価値観」など実に多くの概念を取り上げている。

本論は、何のために、何を明らかにしたいのか。そのためにどのような方法と視点を用いているのかなどが一見明白のようだが、読み進めてゆくと諸概念の迷路に迷い込む。論者の論理的展開が見えにくく、読むのに難渋した。そこで、評者が推察したことを以下にまとめて、論者が伝えようとしたことに接近を試みる。

論者は本論の目的を、「精神障害者のQOLの向上のため」と述べ、また「地域生活支援、コミュニティでの精神障害者の概念規定を中心に整理する」目的とも述べている。しかし前者は本論の最終目的・意義であり、後者は、「精神障害者のQOLの向上に貢献するようなコミュニティ概念を求める」ことが本論のテーマ (達成課題) とした方が適切ではないか。というのは、その後の展開で論者は、国内外の実践家や研究者のコミュニティ諸概念を紹介して、「あるべきコミュニティ概念」を求めることに最も紙数を割いているからである。あるべきコミュニティ概念を求める理由を、論者はコミュニティ概念によって精神障害者の地域生活のQOLの向上が影響されるからだとして述べている。論者のコミュニティ概念の分析視点 (判定基準) は、「精神障害者を地域生活者たらしめるか否か」だと思われる。そして分析・考察を経て以下のような「あるべきコミュニティ概念」を提示している。

即ち、コミュニティ要件には、①地域性と②コミュニティ感情がある。このコミュニティ感情は、地域生活をする中で時間の経過とともに自然に芽生えてくるプロセスである。そしてこのようなコミュニティ感情が生まれるように働きかけることが、精神保健福祉サービスの担い手に求められる。この働きかけの際、①地域特性を踏まえたコミュニティベースの視点と、②コミュニティの強さに着目することが重要である。

以上が、本論文のメッセージであれば、私にも理解可能である。以上のコミュニティ感情と本感情の芽生えを促す際の着目点は特に新しいものではない。しかし、コミュニティ感情のプロセスを強調することは、コミュニティ感情の芽生えに働きかけコミュニティ再生を目指すための有効な概念規定の一つとなると考える。